

| | | | |
|---|---|------------------|---|
| 授業科目 | 成人看護学概論 | | |
| 単位・時間数 | 1単位 30時間 | 開講時期 | 1学年 全期 |
| 1. 科目のねらい・目標 | | | |
| 1. 成人期にある対象の特性や役割、生活および主な健康問題について学習する。 2. 成人期の健康管理および健康問題を解決する援助に必要な理論を学習する。 | | | |
| 2. 授業計画・内容 | | | |
| 回 | 時間 | 項目 | 内容 |
| 1 ～ 6 | 12 | 成人看護の対象理解 | 1. 成人とは 2. 成人の成長発達（青年期、壮年期、向老期） 3. 成人の役割 4. 成人各期の健康問題 5. 成人と死 6. 成人の生活 7. 学習の特徴 |
| 7 ～ 11 | 10 | 成人期の健康障害 | 1. 生活習慣に関連する健康課題 2. 職業と健康障害 * 1. 2ともにグループワーク 3. ワーク・ライフ・バランス 4. セクシュアリティとジェンダー |
| 12 ～ 14 | 6 | 成人への看護に有用な概念 | 1. ストレス 2. 危機 3. セルフケア 4. 自己効力 5. 死の受容段階 |
| 15 | 2 | 学習のまとめ 単位認定試験 | |
| 3. 教科書 | ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 | | |
| 4. 参考書 | | | |
| 5. 成績評価方法 | 筆記試験、課題提出（個人課題・グループ課題） | | |
| 6. 講師からのメッセージ | 成人期の健康問題と生活（生活習慣、職業、ストレス）との関連、生活習慣病予防について考えていきましょう。また、理論を自分の生活体験と照らし合わせながら学びましょう。 | | |
| 7. 先輩学生からのメッセージ | 成人期の特徴を理解し、また実生活と照らし合わせながら成人期にある患者との関わり方を学びましょう。 | | |

| | | | |
|--|--|-----------------|---|
| 授業科目 | 成人看護援助論Ⅰ（急性期） | | |
| 単位・時間数 | 1単位 30時間 | 開講時期 | 2学年 全期 |
| 1. 科目のねらい・目標 | | | |
| 1. 急性期における看護の必要性と具体的な看護の方法が理解できる。 2. 急性期における看護の具体的な知識および技術が習得できる。 3. 病院内における感染管理の方法が理解できる。 | | | |
| 2. 授業計画・内容 | | | |
| 回 | 時間 | 項目 | 内容 |
| 1 | 2 | 健康危機状態にある人の看護 | 1. 危機状態とは危機理論 2. 急性期にある人の看護 |
| 2 3 4 | 6 | 循環器に障害のある人の看護 | 1. 心血管造影等を受ける患者の看護 2. 虚血性心疾患患者の看護 3. 心不全患者の看護 |
| 5 6 7 | 6 | 消化器に障害のある人の看護 | 1. 胃切除、腸切除を受ける患者の看護 2. 食道再建術、膵切除術を受ける患者の看護 3. 人工肛門造設を受ける患者の看護 |
| 8 9 10 | 6 | 感染管理 | 1. 空気感染予防策、飛沫感染予防策、接触感染予防策 2. 職業上の感染予防 3. 感染症患者の看護 |
| 11 | 2 | 泌尿器に障害のある人の看護 | 1. 前立腺がん、膀胱がん 2. 尿路変更術後の患者の看護 |
| 12 13 | 4 | 女性生殖器に障害のある人の看護 | 1. 子宮摘出後の患者の看護 2. 乳房切除術後の患者の看護 |
| 14 | 2 | 演習 | 1. 心電図 2. ストーマ管理 |
| 15 | 2 | 学習のまとめ 認定試験 | |
| 3. 教科書 | ①新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 ②ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ⑤系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 ⑥系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 ⑦系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 | | |
| 4. 参考書 | 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版 中央法規 | | |
| 5. 成績評価方法 | 筆記試験 | | |
| 6. 備考（学生へのメッセージ等） | 内容を確認し必要な教科書を準備して講義に臨みましょう。 配布した資料や授業で行った看護技術は、臨地実習で活用しましょう。 | | |

| | | | |
|--|--|----------------------|--|
| 授業科目 | 成人看護援助論Ⅱ（慢性期） | | |
| 単位・時間数 | 1単位 30時間 | 開講時期 | 2学年 全期 |
| 1. 科目のねらい・目標 | | | |
| 1. 慢性期における看護の必要性和具体的な看護の方法が理解できる。 2. 慢性期における看護の具体的な知識および技術が習得できる。 | | | |
| 2. 授業計画・内容 | | | |
| 回 | 時間 | 項目 | 内容 |
| 1 2 | 4 | セルフマネジメント | 1. 慢性疾患の病気と健康のとらえ方 2. 慢性疾患を持っている人の理解 3. セルフマネジメント、エンパワメントと自己効力 |
| 3 4 5 6 | 8 | 糖・脂質代謝に障害のある人の看護 | 1. 糖尿病患者の看護 } (6時間) 2. 脂質異常症、肥満 } 3. 簡易血糖測定（演習） |
| 7 8 | 4 | 消化吸収障害・栄養代謝障害のある人の看護 | 1. 肝がん、肝硬変患者の看護 2. 食道静脈瘤のある患者の看護 3. EMR・ESDを受ける患者の看護 |
| 9 10 | 4 | 腎機能障害のある人の看護 | 1. 腎不全患者の看護 血液透析、CAPD |
| 11 12 | 4 | 血液・造血器に障害のある人の看護 | 1. 白血病患者の看護 2. 造血幹細胞移植患者の看護 |
| 13 14 | 4 | 難病患者の看護 | 1. 難病とは 2. 膠原病患者の看護 3. 内分泌疾患患者の看護 |
| 15 | 2 | 学習のまとめ 単位認定試験 | |
| 3. 教科書 | ①新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 ②ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ⑤系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 ⑥系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院 ⑦系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 | | |
| 4. 参考書 | 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版 中央法規 | | |
| 5. 成績評価方法 | 筆記試験 | | |
| 6. 備考（学生へのメッセージ等） | 内容を確認し必要な教科書を準備して講義に臨みましょう。 配布した資料や授業で行った看護技術は、臨地実習で活用しましょう。 | | |

| 授業科目 | 成人看護援助論Ⅲ（回復期） | | |
|--|---|------------------|---|
| 単位・時間数 | 1単位 30時間 | 開講時期 | 2学年 後期 |
| 1. 科目のねらい・目標 | | | |
| 1. 回復期における看護の必要性和具体的な看護の方法が理解できる。 2. 回復期における看護の具体的な知識および技術が習得できる。 | | | |
| 2. 授業計画・内容 | | | |
| 回 | 時間 | 項目 | 内容 |
| 1 ～ 2 | 4 | リハビリテーション看護 | 1. リハビリテーションの定義・対象と制度 2. 障害の捉えの変化と障害の受容 3. リハビリテーションにおける多職種との連携 4. リハビリテーション看護 |
| 3 ～ 6 | 8 | 運動機能障害のある人の看護 | 1. 固定・牽引時の看護 2. 手術療法を受ける患者の看護 3. 脊髄・頸髄損傷患者の看護 |
| 7 ～ 9 | 6 | 脳・神経機能障害のある人の看護 | 1. 開頭術を受ける患者の看護 2. 高次脳機能障害のある患者の看護 注意・記憶障害、失行・失認、失語・構音障害。嚥下障害、排尿障害 |
| 10 ～ 11 | 4 | 感覚機能障害のある人の看護 | 1. 咽頭・喉頭切除術を受ける患者の看護 2. 光凝固・硝子体手術を患者の看護 3. 白内障患者の看護 |
| 12 ～ 14 | 6 | 呼吸機能に障害のある人の看護 | 1. 呼吸器疾患の症状と看護 2. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 3. 人工呼吸器の管理 |
| 15 | 2 | 学習のまとめ 単位認定試験 | |
| 3. 教科書 | ①系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼 医学書院 ⑤系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院 ⑥系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 | | |
| 4. 参考書 | 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版 中央法規 | | |
| 5. 成績評価方法 | 筆記試験 | | |
| 6. 備考（学生へのメッセージ等） | 内容を確認し必要な教科書を準備して講義に臨みましょう。 配布した資料や授業で行った看護技術は、臨地実習で活用しましょう。 | | |

| 授業科目 | 成人看護援助論Ⅳ（緩和ケア・クリティカルケア） | | |
|--|--|--------------------|--|
| 単位・時間数 | 1単位 30時間 | 開講時期 | 3学年 全期 |
| 1. 科目のねらい・目標 | | | |
| 1. クリティカルケア、がん看護、終末期看護の必要性和看護の方法を理解する。 2. クリティカルケア、がん看護、終末期看護の具体的な知識および技術を習得する。 | | | |
| 2. 授業計画・内容 | | | |
| 回 | 時間 | 項目 | 内容 |
| 1 ～ 4 | 8 | クリティカルケア | 1. ICUの看護 2. 急性呼吸不全患者の看護 3. 脳血管障害患者の看護 4. 多発外傷患者の看護 5. 開心術を受ける患者の看護 |
| 5 ～ 6 | 4 | 緩和ケア | 1. 緩和ケアとは何か 2. 緩和ケアの方法 3. 死の看取り、症状マネジメント 4. グリーフケア |
| 7 ～ 8 | 4 | がん患者の看護 | 1. がん患者の特徴 2. がん患者の倫理的側面 3. 補完代替療法 |
| 9 ～ 10 | 4 | 放射線療法・化学療法を受ける人の看護 | 1. 放射線療法を受ける患者の看護 2. 化学療法を受ける患者の看護 |
| 11 ～ 14 | 8 | 終末期医療の現状 | 1. 死の概念と受容 2. 終末期医療の現状と課題 3. 死後の変化と死後の処置の変遷 4. 延命治療と安楽死（グループワーク） 5. 臓器移植と脳死（グループワーク） |
| 15 | 2 | 学習のまとめ 単位認定試験 | |
| 3. 教科書 | ①系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 ②系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 ③新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 | | |
| 4. 参考書 | 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社 | | |
| 5. 成績評価方法 | 筆記試験 | | |
| 6. 備考（学生へのメッセージ等） | 内容を確認し必要な教科書を準備して講義に臨みましょう。 | | |

| | | | |
|--|--|----------------|--|
| 授業科目 | 成人看護援助論Ⅴ（看護過程） | | |
| 単位・時間数 | 1単位 30時間 | 開講時期 | 2学年 後期 |
| 1. 科目のねらい・目標 | | | |
| 1. 周術期の看護の必要性と具体的な看護の方法が理解できる。 2. 周術期にある人の看護過程の展開方法を習得する。 | | | |
| 2. 授業計画・内容 | | | |
| 回 | 時間 | 項目 | 内容 |
| 1 ～ 3 | 6 | 周術期の看護 | 1. 周術期の特徴 2. 術後合併症のリスクアセスメント 3. 術前指導（演習） |
| 4 ～ 5 | 4 | 手術室看護 | 1. 手術室の環境管理 2. 手術室における看護 |
| 6 ～ 15 | 20 | 周術期の患者の看護過程の展開 | 腹腔鏡下幽門側胃切除術を受ける患者の事例展開 |
| 3. 教科書 | ①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 | | |
| 4. 参考書 | エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版 中央法規 | | |
| 5. 成績評価方法 | 評価表に基づいて評価をします。 | | |
| 6. 備考（学生へのメッセージ等） | 展開は個人学習とグループワークで進めます。 既習の授業内容を活用しながら進めましょう。 展開は臨地実習に活用しましょう。 | | |